

野尻秀之教授の退職記念号に寄せて

熊本学園大学 学長 幸 田 亮 一

野尻秀之先生は、1969年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程を修了され、西ドイツや米国での研究生生活を経験された後、1980年に法政大学工学部経営工学科兼任助手に就任されました。この間、東京工業大学より工学博士の学位を授与されています。そして、熊本商科大学商学部にて講師として着任されたのが1982年ですが、研究業績とキャリアが評価され、早くも翌1983年には教授に昇格されています。

ご専門は経営科学、システム科学であり、「適応的チームの理論」や「チームのファジィ決定理論」などの研究課題に取り組まれ、国際的に評価される研究業績を積み上げられてきました。国際ファジィシステム学会や日本経営工学会、日本ファジィ学会、日本経営工学会などに所属され、論文審査委員などをお務めになり、2008年には情報通信学会より学会貢献賞を、2010年には日本経営工学会より学会貢献賞を受賞されています。

本学では、1986年6月から1987年12月まで経営学科長を、1992年1月から1993年12月まで情報教育センター長を、2000年1月から2001年12月まで就職委員長を、2012年1月から2014年3月まで大学院経営学研究科長をお務めになり、本学の学生支援、教育支援、研究充実に大いに貢献して下さいました。

個人的には、1996年から2005年まで、商学部経営学科の同僚としていろいろご指導頂きました。その後も、研究室が近かったのでエレベーターや廊下で出会う機会も多く、その際は必ず一言二言お声をかけて下さいました。また、商学部教授会でも同席させて頂きました。普段は温厚でもの静かな先生ですが、重要な課題に関しては明確なご意見を堂々と開陳されている姿が強く目に残っています。

ご退職の年には経営学研究科長として「経営学研究科の20年」を作成するという課題が持ち上がり、私も編集委員の一員としてご一緒させて頂きました。システム科学を専門とされる先生のおかげで予定どおり、しっかりした小冊子ができあがり、将来、新たな大学史が編纂される際に大いに参考になるものだと確信しております。

ご退職後も、日独協会理事などのお仕事を通じ熊本の発展に貢献されています。先生の豊富な学識と経験を發揮されて、今後いっそう熊本学園大学の発展を応援して下さいますようお願い申し上げます。先生の今後のご健勝とご活躍を記念して筆をおきます。